令和６年７月１７日

藤岡地域会議
会長　島田　勝　様

豊田市長　太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の７第１項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

１　報告事項　　令和６年１月２５日に藤岡地域会議から受けた「『（仮称）ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造」に関する答申についての検討結果は別紙のとおり

２　主管課名　　企画政策部　企画課、都市計画課

別 紙

藤岡地域会議からの答申に対する検討結果

1	答申内容	【まちづくりの方向性】 （１）１００年人生、生きがいを持って暮らせるまち ・お年寄りになってもやたら元気で、生きがいを持って、安心して暮らせるまちづくりを目指してほしい。 （２）１００年人生、生きがいを持って暮らせるまち ・住民同士が仲よく、支え合うことができ、生まれ育った故郷に、若者がいつか戻ってきたいと思えるまちづくりを目指してほしい。 （３）愛着・誇りの形成ができるまち ・人もペットも誰もが、住みたくなるまちづくりを目指してほしい。
	市の考え	今後５年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称）ミライ実現戦略２０３０」において、注力する視点として、①「こども」起点でまちづくりを考える。②誰もが「つながり合う」まちづくりを進める。③人を支える「まちの基盤」をつくる。を掲げています。 こうした視点を踏まえ、若い世代を含むこどもたちが多様な場で、多様な人と世代とつながり多様な経験ができるまちづくりや人生１００年時代に豊かな経験・活力を次世代につなぎ、高齢者を始め、大人たちがいきいき暮らす姿を伝えることで、まちへの愛着を育むとともに、こどもたちにミライに夢と希望をつくることを目指すことを重視したいと考えており、こうした取組を通じて、誰もが「住みたい」「いつか戻ってきたい」と思えるまちづくりにつなげたいと考えています。
2	答申内容	【まちづくりの方向性】 （４）つながるまち 拠点間や他の地域と連携したまちづくりを目指してほしい。
	市の考え	将来都市構造の実現に向けて、「拠点間の連携」の視点は重要な視点であると認識しています。それぞれの地域がより緊密につながり合い、これまでにない新たな価値や可能性を生み出すまちづくりを進めていきたいと考えています。

3	答申内容	（5）産業や観光が発展するまち 企業も進出したいと思えるような魅力を持ち、観光資源に多くの人が集まるまちづくりを目指してほしい。
	市の考え	「（仮称）ミライ実現戦略2030」において、ミライを支える産業の創出・育成や、積極的な起業創業支援など、今後注力すべき取組について検討しています。
4	答申内容	【まちづくりのめざす姿・基本的な考え方】 ●継承 （1）心豊かなつながりづくり 多様な世代の人と人がつながり、また助け合える心と心のつながりを大切にしてほしい。 （2）今あるものを活かす まちづくりに活かすことができる、地域の豊富な自然を大切にしてほしい。 （3）かけ算で魅力創出 新たな発想による職業の安定や子育て支援を大切にしてほしい。
	市の考え	ご意見のとおり、「つながり」については、多様な「人と人」「世代と世代」「人と地域、自然」とのつながりを通じた「気づき合い」「認め合い」「学び合い」が重要と考え、「（仮称）ミライ構想」に掲げています。 「（仮称）ミライ実現戦略2030」において、まちの歴史・文化・芸術や自然をミライにつなぐ取組の推進や身近な地域の魅力を知り、生かす機会の充実などの施策を検討しており、地域愛の醸成や次世代の担い手の育成につなげていく考えです。 また、多様な働き方を実現する人材戦略への支援や結婚・出産・子育て支援の充実など、今後注力すべき取組について検討しています。

5	答申内容	【まちづくりのめざす姿・基本的な考え方】 ●深化 （１）未来を見据えて軸をつくる 元気なお年寄りや、元気な世代が活躍でき、また、まちづくりの中で何か軸をつくり、それを誇りにしながら暮らせる環境づくりを大切にしてほしい。 （２）前向きに柔らかく考える 「できない」ではなく、「ならどうすればよいか」と前向きな発想ができるよう、様々な世代の意見を聞くことを大切にしてほしい。 （３）どのような地域にしたいのか住民自身が考え、行動につなげる「チェンジ・チャレンジ」精神を大切にしてほしい。
	市の考え	今後５年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「（仮称）ミライ実現戦略２０３０」において、若い世代を含むこどもたちが多様な場で、多様な人と世代とつながり多様な経験ができるまちづくりや人生１００年時代に豊かな経験・活力を次世代につなぎ、高齢者を始め、大人たちがいきいき暮らす姿を伝えることで、まちへの愛着を育むとともに、こどもたちにミライに夢と希望をつくることを目指すことを重視したいと考えており、こうした視点を軸に取組を検討していく考えです。 なお、総合計画の策定に当たり、地域会議での諮問答申のほか、こども会議や学生・外国人の方との意見交換、子育て世代を中心としたまちづくりミーティングや中間報告会等を開催し、市民の皆様から広くご意見を頂いておりますが、「（仮称）ミライ構想」で掲げるまちづくりの基本的な考え方を基に、策定後においても様々な方との意見を踏まえ、施策の見直し等を行っていく考えです。

6	**答申内容**	【まちづくりのめざす姿・基本的な考え方】 深化には、３つの「変える」を意識するとあります。良い考えではあると思いますが、住民一人ひとりが意識し、行動につなげるまでの手立ての考えがあるのか気になります。市民への浸透度の見える化や、見方を変えるヒントとなる他の地域を知る機会や様々な世代の話を聞く機会を、これまで以上に増やすことを提案します。
	市の考え	御指摘のとおり、市民の皆様へ情報を届ける・伝えることが不十分であると認識しており、戦略的な情報発信について「（仮称）ミライ実現戦略２０３０」の施策にも掲げ、積極的な発信に取り組んでいきたいと考えています。 また、計画自体についても、市民にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。 地域同士の情報交換や交流などは、旭地域や朝日丘地域などでもすでに取り組まれており、このような取組の横展開をしていくことが重要だと考えています。
7	**答申内容**	【都市構造のイメージについて】 今の構想によると、中山間部の人口が、（仮）えきちか居住誘導エリアに益々流出し、藤岡地区がさらに縮小し、単なる通過地点とならないかとても懸念します。過疎化が深刻になってからでは遅いと考えます。 そうならないために、足助と同様に「広域の生活拠点」としての位置づけや、人口を増やすための住宅地の整備や商業施設の誘致を、積極的に行っていただくことを提案します。
	市の考え	将来都市構造では、人口減少が進展する中でも各地域の拠点性を維持していくことを示していきます。藤岡地区においても、生活拠点として位置付け、地域特性を生かした多様なライフスタイルの受け皿となるような居住環境の確保について検討を進めていきます。